

漁場環境・生物多様性保全総合対策事業のうち、 厳しい環境条件下におけるサンゴ増殖技術開発実証事業（継続）

1 趣 旨

サンゴ礁は多様な水産生物の生息場となり豊かな漁場を育むが、近年の海洋環境の変化等によりサンゴ礁生態系の減少が危惧されることから、サンゴの保全・再生を図るための技術開発が喫緊の課題となっている。

わが国最南端の沖ノ鳥島においては、多様なサンゴが生息し、排他的経済水域の重要な拠点となっているが、台風等による波や流れ、砂礫の移動等の影響を受け、サンゴ種苗の着生が困難なことなどから、サンゴの生育にとって厳しい環境条件となっている。また、沖ノ鳥島は、波浪による侵食や地球温暖化に起因する海面上昇により島の水没が危惧されており、サンゴ礁の有する消波機能やサンゴ砂礫の集積などによる生態工学的な島の保全・再生が強く求められている。

そこで、わが国排他的経済水域の重要な拠点である沖ノ鳥島をモデルに、多様なサンゴ種にかかる種苗生産、移植、保全、モニタリング等一連のサンゴ増殖技術を開発し、一定規模のサンゴ増殖技術の確立を図るとともに、これまで移植・生育したサンゴ群集を核として、沖ノ鳥島のサンゴ礁を面的に拡大させるための増殖技術を開発する。

2 事業内容

(1) サンゴ生息環境調査及び種苗生産技術の開発

沖ノ鳥島に生息するサンゴの生育環境条件に関する現地調査を行うとともに、沖ノ鳥島に生息する複数のサンゴ種について、有性生殖によるサンゴの種苗生産技術を開発する。

(2) 現地実証レベルの移植及び保全技術の開発

種苗生産で得られたサンゴ種苗等の着生が可能な増殖基盤の開発とあわせて、効率的な移植技術や効果的な移植後の保全及びモニタリング技術等、一連のサンゴ増殖技術を開発し、一定規模のサンゴ増殖技術の確立及び他地域への普及を図る。

(3) 面的増殖技術及び現地種苗生産技術の開発

沖ノ鳥島礁内の増殖礁に移植・生育したサンゴ群集を核として、サンゴ生息域の面的増殖技術を開発するとともに、種苗生産施設で生産が困難なサンゴ種について現地の礁内にて対応可能な種苗生産技術を確立する。

3 委託先

民間団体等

4 事業実施期間

平成21年度～平成29年度

5 平成29年度予算概算決定額（前年度予算額）

124,283千円（139,510千円）

6 補助率等

委託費

7 担当課

水産庁整備課 03-6744-2390（直）

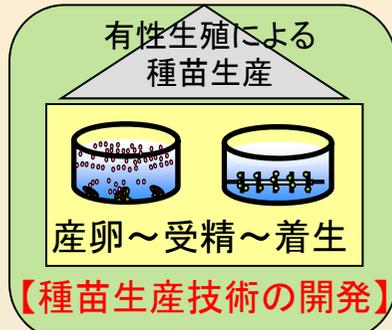
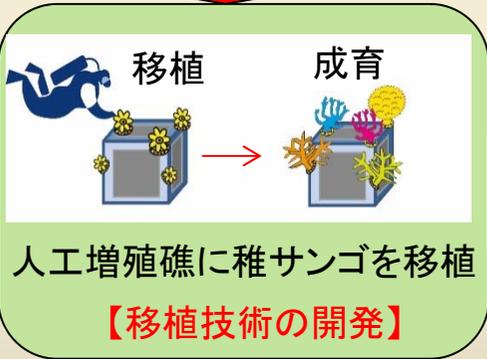
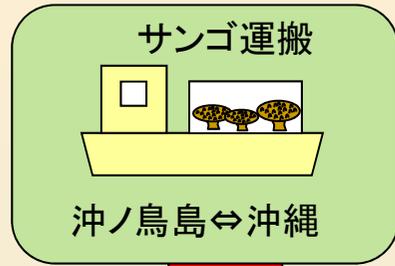
厳しい環境条件下におけるサンゴ増殖技術開発実証事業

【平成29年度予算概算決定額：124(140)百万円】

多様な水産生物等の生息の場として重要なサンゴ礁の保全・回復を図るため、厳しい環境条件下にある沖ノ鳥島をモデルに、種苗生産、増殖基盤開発、移植、保全等一連のサンゴ増殖技術の開発を行うとともに、サンゴ礁の効率的な拡大に向けた面的増殖技術を開発する。

委託先：
国⇒民間団体等

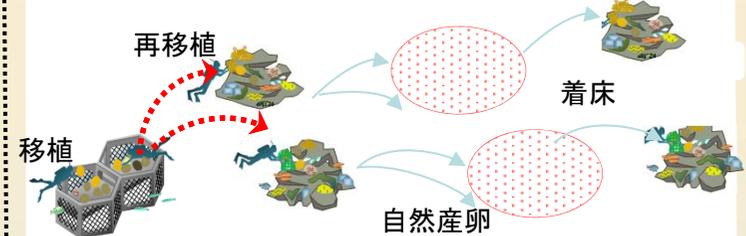
サンゴの種苗生産技術と人工増殖礁を用いた移植・保全技術の開発



面的増殖技術と現地では対応可能な種苗生産技術の開発

・効率的・効果的な再移植技術の確立・実証
【面的増殖技術の開発】

厳しい環境条件下にあるサンゴ礁を効果的かつ面的に再生させる技術の開発



・礁内での幼生収集・着床技術の開発・実証

【現場対応型種苗生産技術の開発】

サンゴの幼生収集 幼生を大量に着生



- ・良好な水産生物の生息環境空間の創出
- ・南方系魚類等の漁業生産量の増大
- ・沖ノ鳥島の保全による排他的経済水域42万km²の確保による水産利用の推進

